

閉村にあたってのあいさつ

洞爺村長 菊地 勉



未開の荒野を開拓

明治二十年五月十日、香川県に移住団の三橋政之団長ほか、二十二戸七十六名が未開の洞爺に第一步を印し、原始林におおわれた現在の大原の地に開墾の鋤を下ろしてから百二十年の歳月が流れました。また、大正九年五月五日、当時の虻田村から分村し、名実ともに洞爺村が誕生してから八十六年となりました。

その間、未開の荒野を開拓した先人たちの計り知れない努力と、地方自治の幾多の変遷を経ながらそれぞれの時代を精一杯生き抜き、現在の洞爺村を築き上げて来た村民の皆様のご姿を想起し、深く敬意と感謝の意を表したいと存じます。

本村は、太平洋戦争などでの一家の働き手に対する兵役召集や昭和三十年代半ばからの高度経済成長期の都会への人口流出など、時代の荒波に翻弄されながらも開拓当時より純農村として歩み、着実に発展を遂げてまいりました。

有数の野菜産地に発展

昭和四十五年からの第二次農業構造改善事業による近代的施設園芸団地の形成、昭和六十二年から天候に影響されない農業振興をめざした国営大原地区かんがい排水事業などを展開し、現在道内有数の野菜産地となるなど一大農業地域となっておりま。

また、洞爺湖の恵みを生かしたキャンプ場、水の駅などの観光レクリエーション施設や都市と農村の交流を図る農業研修センターなどの体験施設の整備、ぐるっと彫刻公園整備や国際彫刻ビエンナーレなどの芸術・文化発信など特色ある事業を展開して成果を

上げ、本村を訪れる観光客の増大を図り、老朽公営住宅の建替えなど住民生活の安定に努めてまいりました。

しかし、地方の過疎化、全国的な少子・高齢化など時代の大きな流れの中で、人口の減少が続ぎ、近年は横ばい傾向となりながら徐々に減少して来ています。

また、今年は児童数の減少に伴い地域の皆さんのご理解を得て、村内四校の小学校を閉校し、来年度から一校に統合することになりました。

新町として新たに出発

合併は、国の財政危機に端を発したとはいえ全国的に市町村合併が進み、時代に対応できる自治体の力量が問われる中で、本村としても村民の皆様さんのご理解、ご協力を得て虻田町との合併協議を進め、平成十八年三月二十七日「洞爺湖町」として新たに出発することになりました。

今後は、洞爺湖温泉などの

観光地や海面漁業と本地域の農業が有機的に結び合い、新生「洞爺湖町」が大きく発展することを念願してやみません。

結びに、村民の皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、閉村のご挨拶といたします。

